

技術者たるもの斯くありたし

附 漢詩から学ぶ技術者訓

宮崎 祐助

年寄りのバカほど バカなものはない

「他人の受け売り」という言葉はない

- ・他人の話を聞いて、本を読んで、成程と思った事が有れば、それは聞き手・読み手が潜在的に持っている考え方といつてい
- ・潜在的な考えを多く顕在化させ得たひとを「賢い人」というのだと思う

望ましい技術者の心得

- ・自分自身の安全率を持ちなさい
- ・正しい判断を即座に出来るようになりなさい
- ・相手の言語で話せるようになりなさい
- ・工学とは常識であると知りなさい
- ・トラブルを正しく対処できるようになりなさい

- ・知らないと言える自信を持ちなさい
- ・持ってる知識を使えるようになりなさい
- ・自分流の切り口を持ちなさい
- ・時の流れに敏感になりなさい
- ・進んで人の師となりなさい

- 裸の王様になってはいけない
- 賢い1割の人間になりなさい
- 井の中の蛙でもいいが、せめて天の高さだけは知っておきなさい
- 正しい日本語を話すように意識しなさい
- 技術屋としての職業病にかかりなさい

自分自身の安全率を持ちなさい

- 自分自身の判断に基づく安全率を意識的に持つ
- 入力値・設計計算法・材料・人間性、等々の全てに安全が含まれている
- 自分の安全率を持ってて1人前
- 安全率の無い世界は無い
- 医者にも安全率が有る(ヤブと名医)

正しい判断を即座にする

- 世の中正しい判断を即座に出来る人間が勝つ(麻雀の勝負の世界と同じ)
- 自分自身の判断基準を持つ
- 知識と経験がこれを持たせてくれる

正しい日本語を話すよう意識する

- 句読点の打ち方で意味が変わる
明日は雨降る天気にござなく候
- 主語と動詞、単文・複文・重文・文語・口語を意識する
- 語尾、助詞にも気を付ける
.....すべきである、.....望ましい、
.....ねばならない、etc
駅から5分と駅より5分は同じか

相手の言語で話しなさい

- ・教授と准教授、助教の違い
- ・小学生の子供に分かるように自分の仕事の内容を話しなさい
- ・相手の言語で話せることがプロ

工学とは常識であると知りなさい

- ・工学における諸問題は、その9割が日常生活での常識的な判断基準で解決できる
- ・難しく考えるのが工学では無い、加減乗除が工学的検討の基本と心得よ
- ・貴方の持てる知識が工学だと心得なさい

トラブルを正しく処理しなさい

- ・トラブルの最初の対応は先ず応急処理
- ・何が起こっているかを冷静に正しく把握する
- ・トラブルの原因が分かれば対策が立てられる
- ・トラブルの90%はヒューマンエラー

知らないと言える自信を持ちなさい

- ・土農工に位置する人達は立場的に知らないと言わない(裸の王様だから)
- ・一番してはいけないこと、それは知ったかぶりである(危険を誘発することにもなる)
- ・知らないと言った事が自分の未熟によるものであったら、それは恥ずかしい

持っている知識を 使えるようになりなさい

- ・持てる知識の活用・応用・発展的転用が出来て一人前
- ・持てる知識を貴方の工学的常識・判断基準にしなさい

自分流の切り口を持ちなさい

- ・物事は全てステップを踏んで考えていく
- ・考えるステップにオレ流を出す、つまり、自分流の思考回路を持つ
- ・論理的な思考が出来ないとダメ

時の流れに敏感になりなさい

- ・世間の流れを知らないということは常識人では無い
- ・技術者バカは本当のバカで賢い人間とは言えない
- ・時流を知らなければ技術開発などできない

進んで人の師となりなさい

- ・人に教えることで自分が成長する
- ・孟子は「人之患在好為人師」というが、そんなことはない、その何が悪いのか
- ・部下を育てることで自分自身が成長する

裸の王様になってはいけない

- 既製グイについてのもろもろは、大学の先生より専業者の方々の方が良く知っている
- 専業者の技術者より施工に関しては現場で働いている職人さん達の方が数段よく知っている
- 職人から見た皆さんは裸の王様となっていないか
- 人間、誰しもリトマス試験紙を持っていないことを忘れてはならない

賢い1割の人間になりなさい

- 世の中9割の人間はアホ、賢い1割の人間に
なりなさい
- 活字になっていること、メディアの言うこと、こ
れを全面的に信じるバカ
- 自分の判断基準で善悪・ウソホントを判断し
なさい

井の中の蛙でもいいがせめて天の高 さだけは知っておきなさい

- 夜郎自大となるな
(夜郎という小さな国の中の王が大国である漢の國
を自分の国くらいの大きさかと聞く)
- 螳螂怒腎以当車轍
(カマキリが自分の力も分からずに腕を振り立
てて戦車に向かって行くこと)

- 自分の専門領域だけでの専門家であっては
いけない
- 広い視野を持つての狭い領域の専門家にな
りなさい

技術屋としての職業病にかかりなさい

- ・何事にも白黒をつけなさい
- ・感覚(フィーリング)で物事を判断するな
- ・自分を信じなさい(この言葉勘違いしないように)
- ・意識して行動する(無意識な行動は百害あって一利なし)

子曰、学而不思則罔、思而不學則殆

- ・学びて思わざれば即ち罔く 思いて学ばざれば即ち殆し
- ・知識があってもそれを咀嚼し発展させて自分を高められなければ意味が無い
- ・自分だけの狭い考えだけに頼るのは危険だという意味

付 漢詩から学ぶ技術者訓

- ・孔子・孟子(紀元前4、5世紀)をはじめ古人からの教えには学ぶべきことが多いある

特に「温古而知新 可以為師可笑」である

子不語怪力乱神

- ・子は怪力乱神を語らず
- ・孔子は、怪異、怪力、無秩序、神秘に関しては語らなかった
- ・つまり不可思議なこと、超自然的なこと、神の起こした奇蹟などといったことは話さず、人間に関してのことのみを語ったということ
- ・私は、神には「誓う」ものであって「願う」ものではない、と学生諸君に言っていました

君子欲訥於言 而敏於行

- 君子は言に訥にして 行に敏ならんと欲する
- 口先だけの評論家(偽インテリに多し)であってはならない(一億総評論家となつたら国は滅びる)

子曰，過而不改 是謂過笑

- 過ちて改めざる 是を過ちという
- 「過則勿憚改」とも言っている
- 犯した過ちから何を学ぶかが重要で、何も学ばなければ、単なる「アホ」である

知彼知己者 百戦不殆

- 彼を知り 己を知る者は 百戦殆うからず
- 原文ではこの後に「彼を知らず己を知れば一勝一敗す 彼を知らず 己を知らずんば 戰う毎に必ず殆うし」と続く

良薬苦於口 忠言拂於耳

- 良薬は口に苦し 忠言は耳を拂らう
- 他人から受ける忠告は、とかく気に障るもの、でも我慢しなさい、必ず役に立つものだから
- 賢い人は口に苦くも良薬を飲む、明晰な君主も敢えて耳障りな忠言に耳を傾ける

三人成市虎

- 三人市虎を成す
- 実際に有りえないことでも三人が揃って「有った」と言えば、多くの人は信じてしまう
- 流言飛語の類を冷静に聞き分けられる賢さが必要(新聞・テレビのウソ)

不可陥之楯 与無不陥之矛 不可同世而立

- 陥す可からずの楯と 陥さざる無きの矛とは 世を同じくして立つべからず
- 日頃言っていることとやっていることが違う(矛盾)
- 最も信頼を得られない行為

曾子曰 吾日三省吾身

- 吾日に三たび吾が身を省みる
- 曾子は、日に三つのことについて反省したという、その三つの反省の内容は、
 - 1 人からの相談に誠意を以て対応したか
 - 2 友達の信頼を裏切らなかったか
 - 3 人と話していくい加減なことを言わなかつたか

孟子曰、盡信書 則不如無書

- 尽く書を信ずれば 則ち書無きに如かず
- 本に書いてあること、人の話を無批判に信じるのであれば、書など無い方がいい、といった意味
- 自分の考えを持つべきである

君之読者 古人之糟魄己夫

- ・君の読むところのものは 古人の糟魄のみ
- ・本も大切だ。人の言葉も大切な指針だ。しかし、文字にも言葉でも表すことが出来ない事が有る。それに気が付き学ばなければいけない
- ・技術の継承伝承の難しさ

筈日新 日々新 又日新

- ・筈に日に新たに 日々に新たに また日に新たなれ
- ・常に自分自身の心や学問を磨き 日一日と向上、進歩するように努めなさい
- ・「日新」と名づけられた藩校は全国で7つもあった

知足不辱 知止不殆

- ・足るをしれば辱しめられず 止まるを知れば殆うからず
- ・満足することを知れば恥をかくことはない、限度を心得ていれば危うい目に会うこともない
- ・自分の力量を知る事の大切さ
- ・「知彼知己者 百戦不殆」も同じ意味

他山之石 可以攻玉

- ・他山の石、以て玉を攻くべし
- ・他人の悪い行いを参考にして 自らの教訓として向上しなさい
- ・いいお手本を参考にして努力するという意味に使われているが、これは間違い

不登高山 不知天之高也

- ・高山に登らざれば 天の高きを知らざるなり
- ・多くの事を勉強し、経験を積み重ねていくと、学問も人生もとても幅が広く奥が深いものだと分かる

山高故不貴 以有樹為貴

- ・山高きが故に貴からず 樹有るを以て貴しと為す
- ・どんなに見掛けがよくとも内容が伴わなければ立派とは言えない
- ・見掛けより中身である(工学とは泥臭いもの、スパコンでの解析結果と電卓での計算結果)

人莫躡於山 而躡於坎

- ・人は山に躡づくこと莫し、 而して坎に躡づく
- ・人は、重要なことには十分な注意を払うので躡くことはないが、些細なことに注意を怠り躡く事がある
- ・油断大敵である

当以三余

- ・當に三余を以てすべし
- ・ヒマが無い、時間が無いとやるべきことをやらずにすませるが、そんなことではいけない時間は作れば必ずある
- ・年中忙しい農民ですら三つの余裕が有る、四季のうちの冬、一日のうちの夜、その雨の日、の三余である

今王必欲致士、先従隗始

- ・今王、必ず士を欲せんとするなら 先ず隗より始めよ
- ・遠大なる計画でも、まず手近なところから始めなさい
- ・転じて「物事は言い出した者から始めるべきだ」の意味使われている

綸言汗如汗

- ・綸言汗のごとし
- ・責任立場にあるものが一度口に出したら 取り消すことが出来ないという覚悟の下に言動しなさい
- ・一度体内から出た汗は体内に戻せないという意味

為蛇足者 終亡其酒

- ・蛇足を為す者は、終には其の酒を亡う
- ・蛇の絵を描く競争で蛇の足まで描いて1等賞金の酒を貰い損ねたという故事
- ・教育における蛇足とは何か、工学に関する蛇足とは何か

子曰、過猶不及

- ・過ぎたるは猶及ばざるがごとし
- ・物事には適当な度合いというものがある
- ・過不足のない丁度いい事が大切なのだ

百聞不如一見

- ・百聞は一見に如かず
- ・繰り返し聞いたとしても、実際に自分の目で確かめる方が良く分かる
- ・聞くと見るとでは大違い

犬馬難 鬼魅最易

- ・犬馬難し 鬼魅最も易し
- ・犬や馬を絵に描くのは難しいが、化け物などは誤魔化して書いても分からぬ
- ・ものには誤魔化しがきくものと、きかないものがある

懸羊頭壳狗肉

- ・羊頭を懸けて狗肉を売る
- ・看板に偽りあり
- ・表向きは立派でも中身が伴っていないこと
- ・人間、誰しも「リトマス試験紙」を持っている

心不在 視而不見 聽而不聞 食而不知其味

- ・心ここに在らざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず、食らえども其の味知らず
- ・心が他のことに取られていると肝心なことが見えなくなる

最後に一言
「責任は取れないものである」

この言葉を重く受け止めて
行動していただきたい